

学習目標

歯の形態とその特徴を学習し、展開図ならびにCT画像から歯の立体的な構造を理解して歯を鑑別できる能力を身につける。またヒトの歯の形態的および機能的な特徴を進化や臨床的な視点から考える。

- 教科書：1 歯の解剖学（金原出版）
 2 「歯のかたち」実習書（ヨシダ印刷）
 3 歯のかたち ー初学者のための基礎と演習ー（永末書店）
 教科書と併用するプリントを追加配布することがある。

■参考書：指定しない

■授業時間：水曜日 14:00～16:50

■オフィスアワー：磯川桂太郎 月曜 8:00～9:00

網干博文 月曜 12:00～13:00

■成績評価：第2～7, 9, 10 および13回の実習では、成果物などの提出と口頭試問あるいは小テストを随時行う。成績はこれらに加え、第8回に行う筆記試験（40%）、第11回に行う歯の鑑別試験（10%）、第15回に行う口頭試問（10%）、定期試験（40%）で評価する。出席状況や実習態度に問題がある場合は減算する。

■注意事項：第1, 12, 14回は講堂で講義、また第2～7回ならびに第9, 10, 13回の前半は講堂で講義、後半は第5実習室で実習を行う。遅刻は認めない。第8回の筆記試験は1号館4階大講堂（予定）で行い、試験終了後は講堂で特別講義を行う。第11回の歯の鑑別試験は3号館の実習室（予定）で行う。また第15回の口頭試問は第5実習室で行う。但し、第11および15回は講堂で実習前説明を行う場合があるので掲示物等に注意すること。

授業日・担当者	演習項目	学習到達目標
第1回4月9日 14:00～14:50 磯川 桂太郎	1. 歯のかたち 概論	<ul style="list-style-type: none"> 座学と第3学年での歯型彫刻を通して学ぶ歯の形態を形づくる組織構造やこれを支持する組織の概要を学ぶ。 第2学年で受講する歯の形態関係の教科で学習する事柄を正しく整理・理解できるように、歯の解剖、組織、発生などの学問分野の構成を知る。
15:00～15:50 網干 博文	2. 歯の解剖学 緒論 1) 歯の種類・名称	<ul style="list-style-type: none"> ヒトの歯の種類と名称を覚える。

授業日・担当者	演習項目	学習到達目標
16:00～16:50 網干 博文	2) 歯の記号 3) 歯の構造と名称 4) 歯の方向用語	<ul style="list-style-type: none"> ・各歯の歯種と位置を表すための記号と歯式を覚える。 ・歯冠, 歯根ならびに歯髓腔の形態を学び, 各部位の名称を覚える。 ・歯の方向用語を覚える。
第2回4月16日 網干 博文 山崎 洋介 岸 重人 柿澤 佳子 勝又 淳伊 三須 孝彦 佐藤 哲生 小林 政治 東内 公一 鈴木 篤 関口 哲夫	5) 歯の計測法 6) 展開図の書き方 5) 展開図を書く (教1) pp. 1-34 (教2) pp. 1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・歯のサイズを表現するための抜去歯の計測法について学ぶ。 ・模型歯を計測する。 ・歯の形態を理解するために展開図の書き方について学ぶ。 ・計測値の3倍大で模型歯の展開図を方眼紙上で書き, 形態の把握の仕方を体験する。
第3回4月23日 網干 博文 他	3. 切歯群の形態 1) 上顎中切歯の形態 2) 上顎側切歯・下顎中&側切歯の形態 3) 右側上顎中切歯の展開図を書く (教1) pp. 35-52 (教2) pp. 7-8	<ul style="list-style-type: none"> ・切歯の基本形態として, 上顎中切歯の形態を把握する。 ・唇側面隆線, 唇側面溝, 歯頸線, 切縁, 切縁結節, 辺縁隆線, 舌側面窩, 舌側面隆線, 舌側面溝, 基底結節, 棘突起, 盲孔, 斜切痕などについて学ぶ。 ・上顎側切歯, 下顎中・側切歯の形態を上顎中切歯と比較しながら学ぶ。 ・実習書の当該頁に, 与えられた右側上顎中切歯の計測値の3倍大の展開図を書き, その形態について理解を深める。
第4回4月30日 網干 博文 他	4. 犬歯群の形態 1) 上顎犬歯の形態 2) 下顎犬歯の形態 3) 上顎犬歯の展開図を書く (教1) pp. 52-59	<ul style="list-style-type: none"> ・犬歯は口角部に位置し, 歯冠の先端が錐状の尖頭をなしていることを理解する。 ・上顎犬歯唇側面の外形は五角形で, 尖頭はやや近心に偏っていることを理解する。 ・下顎犬歯は全体として上顎犬歯より小さく, 大きさや形質の発達度の全てが劣ることを理解する。 ・上顎犬歯は舌側の近・遠心辺縁隆線ならびに基底結節が発達するものの, 下顎犬歯では発達が不良であることを理解する。

授業日・担当者	演習項目	学習到達目標
	(教2) pp. 9-10	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎犬歯唇舌側面観では近心隅角は遠心隅角より尖頭寄りにあり, 遠心隅角は遠心方向に突出することを理解する。 ・隣接面観で尖頭の位置は上顎犬歯で中心軸に対してやや唇側に, また下顎犬歯ではほぼ長軸上にあることを理解する。 ・実習書に右側上顎犬歯の計測値の3倍大の展開図を書き, 上顎犬歯の形態について理解を深める。 ・上顎犬歯の歯根は円錐形で長く, 下顎犬歯の歯根は近遠心的に圧平され扁平で近心面に隆線が現れることを理解する。
第5回5月7日 網干 博文 他	5. 上顎小白歯群の形態 1) 上顎第一小白歯の形態 2) 右側上顎第一小白歯の展開図を書く 3) 上顎第二小白歯の形態 (教1) pp. 59-70 (教2) pp. 11-12	<ul style="list-style-type: none"> ・小白歯は頬に面するので頬側面となり, 2咬頭となるため咬合面が加わることを理解する。 ・咬合面の外形は頬舌径>近遠心径, 咬頭の大きさは頬側咬頭>舌側咬頭, 近・遠心面の輪郭はM形になるという小白歯の基本形態を理解する。 ・第一小白歯は舌側咬頭頂が近心寄り, 近心面に圧痕があり, 歯根は半数が2根となることを知る。 ・実習書に右側上顎第一小白歯の計測値の3倍大の展開図を書き, 上顎第一小白歯の形態について理解を深める。 ・上顎第二小白歯は第一小白歯より丸みを帯び, 退化傾向が強いことを理解する。
第6回5月14日 網干 博文 他	6. 下顎小白歯群の形態 1) 下顎第一・第二小白歯の形態 2) 右側下顎第一小白歯の展開図を書く (教1) pp. 70-78 (教2) pp. 13-14	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎小白歯は舌側咬頭の発達が悪く, 歯冠軸が舌側に傾斜することを理解する。 ・咬合面の外形が第一小白歯は犬歯に, 第二小白歯は大臼歯に似ていることを知る。 ・実習書に右側下顎第一小白歯の計測値の3倍大の展開図を書き, 下顎第一小白歯の形態の特徴を把握する。
第7回5月21日 山崎 洋介 他	7. 上顎大臼歯群の形態 1) 上顎第一大臼歯の形態 2) 上顎第二・第三大臼歯の形態	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎大臼歯群の基本形態として上顎第一大臼歯の形態を学ぶ。 ・歯冠の外形は菱形に近く頬舌径>近遠心径であることや, 溝の形と名称, 4咬頭3根の名称, 咬頭の大きさと高さの差, 歯帯, 根間突起, 対角隆線, 窩, 小窩, カラベリー結節などについて学ぶ。

授業日・担当者	演習項目	学習到達目標
	3) 右側上顎第一大臼歯の展開図を書く (教1) pp. 78-92 (教2) pp. 15-16	<ul style="list-style-type: none"> ・上顎第二・第三大臼歯間の形態の推移を学び、上顎大臼歯の形態と機能を理解する。 ・実習書に右側上顎第一大臼歯の計測値の3倍大の展開図を書き、上顎第一大臼歯の形態について理解を深める。
第8回5月28日 14:00~14:50 網干 博文 他 15:00~16:50 影山 幾男	8. 筆記試験 9. 特別講義 「智歯のはなし」 1) 親知らずとは 2) 親知らずは欠如する 3) 萌出率の地理的変異 4) 萌出率の集団間変異	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学んだ切歯・小臼歯の基本形態に関する事項がどの程度理解できているかを確認する。 ・歯列のなかで最後に萌出する第三大臼歯（別名、智歯あるいは親知らず）にスポットをあて、形態学的な特徴を含めた様々な変異について理解する。
第9回6月4日 網干 博文 他	10. 下顎大臼歯群の形態 1) 下顎第一大臼歯の形態 2) 下顎第二・第三大臼歯の形態 3) 右側下顎第一大臼歯の展開図を書く (教1) pp. 92-111 (教2) pp. 17-18	<ul style="list-style-type: none"> ・下顎大臼歯群の基本形態として下顎第一大臼歯の形態を学ぶ。 ・5咬頭2根の名称、溝の名称、咬頭の大きさと高さの差、ドリオピテクス型、プロトスタイリッド、屈曲隆線、第3根、第6・第7咬頭などについて学ぶ。 ・下顎第二・第三大臼歯間の形態の推移を学び、下顎大臼歯の形態と機能を理解する。 ・実習書に右側下顎第一大臼歯の計測値の3倍大の展開図を書き、下顎第一大臼歯の形態について理解を深める。
第10回6月11日 網干 博文 他	11. 歯の鑑別法 1) 歯種の鑑別 2) 上下の鑑別 3) 順位の鑑別 4) 左右の鑑別 (教1) pp. 113-	<ul style="list-style-type: none"> ・永久歯の歯種鑑別の仕方を学習する。 ・各歯種の上下鑑別の仕方を学習する。 ・同一歯種内の順位鑑別の仕方を学習する。 ・各歯の左右鑑別の仕方を学習する。 ・模型歯および実際の歯を使用して歯を鑑別する。

授業日・担当者	演習項目	学習到達目標
	136 (教2) pp. 19-20	
第11回6月18日 網干 博文 他	1 2. 歯の鑑別 試験	・これまで学んだ永久歯の基本形態に関する事項がどの程度理解できているかを確認する。
第12回6月25日 14:00~14:50 磯川 桂太郎 15:00~15:50 磯川 桂太郎 16:00~16:50 網干 博文	1 3. 歯の起源 と進化 I 1) 歯の定義 2) 脊椎動物の歯 1 4. 歯の起源 と進化 II 3) 哺乳類の歯 4) 三結節説 1 5. 歯根と根 管の形態	・角質歯, 卵歯など“歯”の語がつく構造と, いわゆる“歯”とされる構造との違いを理解する。 ・脊椎動物における多様な歯の形態を学ぶことを通して, ヒトの歯の形態が持つ意義や, 歯の硬組織あるいは歯を支持する組織の特徴を理解する。 ・哺乳類の基本歯式を知り, ヒトの歯式との違いが系統発生を踏まえて説明できるようにする。 ・家畜やペット等の身近な動物, 主な実験動物・霊長類の歯性や歯式を知る。 ・三結節説の概要を学び, ヒトの歯の形態の成り立ちについての考え方や名称の由来を知る。 ・これまで学んだ歯冠の形態に加え, 歯根の形態について歯種ごとにその特徴を学ぶ。 ・歯種ごとに歯根の形態, 数, さらに内部構造である根管について, その変異を知る。 ・歯根の形態を知ることが歯科臨床に重要であることを理解する。
第13回7月2日 新井 嘉則 山崎 洋介 網干 博文 磯川 桂太郎 本田 雅規 湯口 眞紀 岸 重人	1 6. 歯の三次 元像 (教2) pp. 21-22	・歯の形態を3次元的に把握するためのツールとして, 本実習用に開発されたCT画像解析ソフトの使用法を理解する。 ・これまで学んだ歯の外部および内部の立体構造を本ソフトを用いて画像を確認しながら理解する。 ・本ソフトを用いて, 歯ごとに形態的な特徴点を確実に画像上で描出できる技術を学び, 将来, 歯科臨床でも必要となる知識であることを知る。
第14回7月9日 14:00~14:50 網干 博文	1 7. 歯の人類 学 I 1) 上顎大臼歯の 退化傾向 2) カラベリー結 節	・人類の起源に関する諸説について理解する。 ・人種とはなにか, 遺伝的な身体的形質にはどんなものがあるかを理解する。 ・歯が人類学で重要視される理由を知る。 ・人種により出現頻度に差異のある歯の形態的特徴について, 特に大臼歯の歯冠形質を中心に理解する。

授業日・担当者	演習項目	学習到達目標
<p>15:00～15:50 網干 博文</p> <p>16:00～16:50 飯沼 利光</p>	<p>3) 下顎大臼歯の溝型と咬頭数 4) プロトスタイリッド</p> <p>18. 歯の人類学Ⅱ 5) シノドント 6) スンダドント 7) 縄文人・渡来系弥生人 8) 日本人二重構造モデル</p> <p>19. 歯のかたちと歯科臨床</p>	<p>・ヒトの歯にあらわれる諸形態で集団間に違いが見られる計測・非計測学的形質について理解する。</p> <p>・モンゴロイド集団の歯の非計測学的形質について理解する。</p> <p>・歯の非計測学的形質によりモンゴロイド集団は2グループに分けられること知る。</p> <p>・アジア地域における2つのグループの地理的分布について、歴史的な集団の移動を含め理解する。</p> <p>・現代日本人の歯の特徴について知る。</p> <p>・臨床の場において、人工臓器である補綴装置に歯のかたちがいかに影響を及ぼしているかを学ぶ。</p> <p>・補綴物に用いられる人工歯には人間の表情を左右する審美的な要素と、ものを咬んだり、食べたりという機能的な要素があり、使用する患者のニーズに応じてそれを使い分けなくてはならないことを学ぶ。</p>
<p>第15回7月16日 網干 博文 山崎 洋介 岸 重人 柿澤 佳子 勝又 淳伊 三須 孝彦 佐藤 哲生 小林 政治 東内 公一 鈴木 篤 関口 哲夫</p>	<p>20. 口頭試問</p>	<p>・これまで学んだ歯のかたちに関する全ての事項がどの程度理解できているかを確かめる。</p>